

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ポータル		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.590	ΔRG	0.050	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール		

テストボール：ポータル

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工
☒ 箱出し状態
☐ 加工
☐ ペーパー
☐ ポリッシュ
研磨剤

番

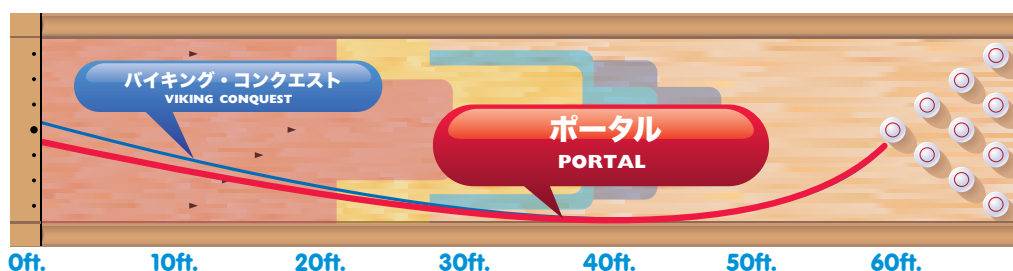
比較対照ボール：バイキング・コンクエスト

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工
☒ 箱出し状態
☐ 加工
☐ ペーパー
☐ ポリッシュ
研磨剤

番



ヘビー
ミディアム
ライト
バフ

PORTAL

Cover	Type	Core	RG ^(15P)	ΔRG ^(15P)	INTΔRG ^(15P)	Surface	Skid	Backend	Hook
RB 92	SOLID	CONDUITE A.I	2.590	0.050	0.019	POWER EDGE	60	75	80

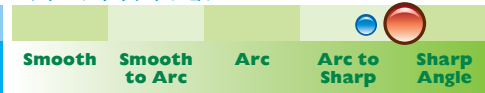
VIKING CONQUEST

Cover	Type	Core	RG ^(15P)	ΔRG ^(15P)	INTΔRG ^(15P)	Surface	Skid	Backend	Hook
RB 94	SOLID	STROBE A.I	2.510	0.052	0.016	2000 ABRALON	56	72	84

レーンコンディション



バックエンドリアクション



レンジス



ボールの評価

「PORTAL」は、これまでの900GLOBALとは一線を画す、新たなボールモーションを提案するモデルです。高RG・高Diffに設定された「Conduit A.I. Core」を採用しながら、従来の高RGボールにありがちな転がりの遅さを感じさせず、しっかりとレーンを進みながら中盤から安定して転がり始めます。さらにバックエンドでは十分なエネルギーを残し、ドライエリアに入った瞬間にははっきりとした反応を見せる。この「走り・転がり・曲がり」のバランスこそがPORTAL最大の特徴と言えるでしょう。カバーストックには「RB 92 Solid」を採用。Solid素材と聞けば、レーン前半から強く摩擦し、動きが重くなるイメージを持つかもしれませんが、PORTALでは、RB 92 Solidのトラクション性能を活かしながら、あえてレーン手前での過度な摩擦を抑え、ボールを先へ運ぶ設計がなされています。そのため、オイルに対して安定感を持ちながらも、Solidとは思えない軽快な走りを感じられます。実際に投球すると、まず高RGコアとは思えないほどの転がりの良さに驚かされます。ボールはレーン前半をスムーズに進み、ミッドレーンでは軸の移動を伴いながらしっかりとレーンを捉えていきます。そしてドライエリアに到達すると、カバーストックの強さだけで押し切るのではなく、残されたエネルギーが一気に方向転換へつながります。この「転がっているのに走る」という感覚は、これまでの900GLOBALボールとは少し違った印象です。特にオイルの削れる過程で、手前でボールが止まり過ぎることなく、ミッドレーンまでボールを運べるため、ラインを内側へ移行してもスムーズに対応できます。一方でバックエンドではドライエリアに対する反応が明確なため、オイル量の多いコンディションだけでなく、コンディション変化の中でもライン調整によって幅広く対応できるでしょう。

特記事項

PORTALは「強いSolidを作る」という従来型の発想ではなく、Solidでありながら走りを確認し、その先で強く反応させるという900GLOBALの新しいアプローチを具現化したボールです。